

環境パートナーシップいわてが設立されました

平成14年9月28日(土)、ホテル東日本にて環境パートナーシップいわて設立総会が開催されました。当日は、100名を越す方々が出席し、環境パートナーシップいわてが設立されました。記念講演では、岩手県立大学高橋秀行先生に「環境パートナーシップいわてに期待されること」と題し、講演していただきました。(第4面)

設立趣意書

岩手には、緑豊かな奥羽山脈や北上高地、母なる北上川、きらめく三陸の海など先人のたゆまない努力により守り育てられてきた貴重な自然が多く残されています。この自然豊かな環境を守り育て、将来の世代に引き継いでいくことが私たちに課せられた大きな使命です。

しかし、今日、自然の減少や廃棄物対策、ダイオキシン・環境ホルモン等の化学物質汚染などの身近な環境問題から、地球の温暖化などの地球規模の環境問題に至るまで様々な環境問題が顕在化してきており、この岩手の地においても、これまで以上の積極的な対応が求められています。

今日の環境問題の大きな特徴は、その問題の多くが県民の日常生活や通常の事業活動に起因していること、そして不特定多数の者がその原因者であるとともに影響を受ける者でもあることです。

このような中で、私たち県民一人ひとりが、環境を重視する価値観を持ち、環境への負荷の少ないライフスタイルを定着させて、環境と共生する持続

的発展が可能な地域社会を築いていくことが、何より大切です。

このような地域社会を創りあげていくためには、県民、事業者、環境団体、研究者、行政等が対等なパートナーシップのもとに、自発的かつ主体的に行動することが極めて重要です。

このため、私たちは、ともに手を携え、環境に関する様々な交流や活動などを行うネットワークをつくりあげていくことが大事と考え、ここに『環境パートナーシップいわて』を設立することといたしました。

私たちは、志を同じくする多くの方々の英知と行動力を結集し、更にこの輪を広げつなげていくこととし、「環境首都いわて」づくりの一翼を担って参りたいと考えております。

発起人代表
村井 宏



設立総会

日時：平成14年9月28日(土)

場所：ホテル東日本

- ・設立総会
- ・記念講演「環境パートナーシップいわてに期待されること」
岩手県立大学総合政策学部 助教授 高橋秀行
- ・活動事例発表「ふるさと季節前線」

～環境情報ネットワーク研究会の取り組み～

環境情報ネットワーク研究会 安倍富士男

いわて環境フォーラム2002 in 東和

開催趣旨

住民、環境団体、事業者、行政等の価値観の異なる主体が、多様な価値観や方向性を認め合うことで、ともに手を携え対等に、持続可能な自然共生型地域社会の形成を目指した「環境パートナーシップいわて」が設立されました。この設立を記念して、NGOによる環境首都コンテスト1位受賞の東和町において「いわて環境フォーラム2002 in 東和」を開催いたします。

「環境」と「パートナーシップ」をテーマに置き、それぞれの取り組みを発表し、意見交換を図ることで、一過性のイベントではなく継続的に全県に広げていく活動をしていきます。

異なる立場からの事例発表と、それに続く各分科会においてパートナーシップによる具体的な取り組みを進めようとしています。環境負荷の少ないイベントを定着させる試みや、地産地消やコミュニティ・ビジネスへのアプローチも行い、郷土芸能など

地域に根ざした資源を再発見し、楽しみながらも環境への取り組みを進めるイベントにしていき来年のフォーラムへとつなぎます。

会場アンケートと出展者アンケートを含め、来年のフォーラムのあり方の検討材料にしていきたいと思っております。

フォーラムへの参加/不参加に関わらずフォーラムについてのご意見をお寄せください。

また次のフォーラムの開催地も募集しています。あなたの地域で環境フォーラムを開催してみませんか？

いわて環境フォーラム実行委員会
eco@isop.ne.jp FAX019-653-6888

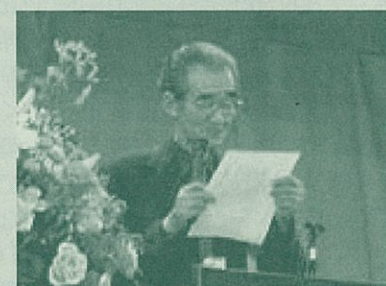
日時 平成14年10月27日(日)

場所 東和町総合福祉センター

入場料 無料

主催 環境パートナーシップいわて/東和町
後援

岩手コミュニティ・ビジネス協議会 東和の環境を考える会
岩手日報社 NHK盛岡放送局 IBC岩手放送 テレビ岩手
岩手めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手



いわて環境フォーラム2002 in 東和 概要

2002年10月27日(日)に「いわて環境フォーラム2002 in 東和」が開催されました。

当日は晴れ間ものぞく天候にも恵まれ、入場者数は250人でした。

基調講演の三島次郎先生のお話しは、「循環型社会」への身近な話題から大きな視点をいただき、東和町のこどもたちによる郷土芸能やワークショップをはさみ、事例発表の流れをくんだ3つの分科会では活発な意見交換がありました。

▽今回のフォーラムで好評なもの

1. 地元食材を使用した試食コーナーは人気があり殆どの来場者が試食を行い地場産品を堪能した
2. 下足袋やマイカップ持参者へ特典を用意したことで、来場者に環境にやさしい行動の実践を促すことができた。
3. 各種体験コーナーを多数設置したことで来場者に家庭でできる環境活動を促すことができた。



プログラム

- 東和町の子どもたちによる郷土芸能
立石子ども百姓踊り
石鳩岡子ども荒鶯太鼓
- 基調講演
「生態系からみた"循環型社会"」
講師 三島次郎氏
(桜美林大学 名誉教授)
- ふでばこワークショップ
エコ文具って何？
- 事例発表
「伝えよう 浮田環境メッセージ 16隊」
東和町立 浮田小学校
「リサイクルで福祉の輪を広げる」
財団法人 盛岡市民福祉バンク
「びよんびよん舎駅前店での取り組み」
びよんびよん舎
「環境自治体を目指して」
東和町
- 分科会
「環境と総合学習」
「食と安心」
「循環型社会とパートナーシップ」
- 展示・パンフレットコーナー
- 喫茶販売コーナー
東和町まほろば福祉作業所
- 臨時託児所
- 地産地消「屋台」無料試食コーナー
生活研究グループ連絡協議会「つたの輪」
東和ふるさと村ごちそう倶楽部
- 環境体験コーナー
洗剤がいらぬ不思議なたわじづくり
廃油からつくるせっけんコーナー
ペットボトルを使ったハーブバターづくり
- 出展・野外テントコーナー
ソーラーワールド
岩手・木質バイオマス研究会
空・山・川総合研究所
東和町間伐材活用起業組合
エコ文具(アベヤス・パイロット)
いわて環境マネジメント・フォーラム
水・エネルギー問題研究会
生ごみリサイクル土澤まちづくり会社
環境パートナーシップいわて
いわてこどもエコクラブ・ネットワーク
地球環境共生ネットワーク EM研究機構
環境情報ネットワーク研究会
岩手自然ガイド協会設立準備会
北上「地球村」
(有)アサヒ
岩手コミュニティ・ビジネス協議会
(有)岩手環境事業センター

いわて発⇒"循環型社会"への情報発信

■ 2002年11月

■エコサイクル製品に取り組むバイオラボ(盛岡市)、自然循環型の植木鉢『woo-pot(ウーポット)』グッドデザイン賞を受賞

『woo-pot(ウーポット)』は、岩手県産のスギの間伐材を細かな糸屑状にして成形したもの。植木鉢自体が水を吸い、中の土に適度な水分を与えます。植木鉢は水分を含むと色が変わるので、水やりのタイミングもひと目で分かります。表面に細かな孔があり、空気が通るので、植物の根にも十分に酸素が供給されます。また原料が木ですから、最終的に土に還すことができる自然循環型の植木鉢です。

(<http://www.biolabo.co.jp/>)

■地域循環型ビジネス。リックス株式会社(北上市)機密書類を出張裁断、上山製紙(千厩町)でトイレトペーパーに。

あなたの会社では機密書類をどのように処分されていますか? 岩手で生まれた機密書類の出張裁断サービスが全

国へ広がりました。岩手では、全県をカバーしてサービスを展開、千厩町の上山製紙の工場トイレトペーパーに再生されるというサイクルを持っています。(http://www.re-x.co.jp/)

■焼却廃棄処分時にダイオキシンが発生しない「エコ・スリッパ」全国へ。



現行販売中の業務用スリッパは、「塩化ビニール製」の物がほとんどで、焼却廃棄処分時に「ダイオキシン」や有毒なガスが発生する為、「不燃ゴミ」として処分され、焼却処分した場合は、年間自動車20万台分以上の二酸化炭素が排出されます。「エコ・スリッパ」(登録商標)は岩手で生まれ、全国へ出荷されています。耐久性は従来製品よりも優れています。あなたもエコ・スリッパにしてみませんか?

(<http://www.asahiweb.net/>)

■「いわいずみこどもエコクラブ(泉山博直代表)」「コカ・コーラ環境教育賞奨励賞」を受賞。

「いわいずみこどもエコクラブ(岩泉町)」青少年を対象に、グループ活動を通じて自然を理解し、大切に教育を行っているボランティア(私的な団体・個人)の活動を助成、支援することによって環境教育の促進を図ることを目的とした「コカ・コーラ環境教育賞奨励賞」として、「いわいずみこどもエコクラブ(岩泉町)」が表彰されました。

あなたの情報を募集しています

身の回りの環境に関する情報などを募集しています。

email eco@isop.ne.jp
fax 019-653-6888

運営委員プロフィール vol.1

運営委員にあなたの声をお聞かせください。email eco@isop.ne.jp

り、小中学校の「総合的学習の時間」を利用した身近な川での環境教育、大学生との川下りキャンプなどを行っている。なぜそんなことをとよ言え、未来を創る子達に「岩手の自然の楽しさ」や「岩手の旨い物」を原体験の中に持ってもらう方が、より実践的で楽しい地域づくりが世代を超えてできると思っております。



■氏名：内田尚宏
■所属：NPO法人北上川流域連携交流会
川と森のクラブ

■プロフィール：子ども達からテレビやテレビゲームの時間を奪いたいと考える元テレビ・ディレクター。六年前にふるさと岩手に戻り、宮城と岩手の子どもたちを集めてキャンプをした

出逢い共にエコ実践中



■氏名：渡辺彰子
■所属：盛岡消費者友の会・岩手県消費者団体連絡協議会

■プロフィール：消費生活問題に関わること三十年この間、食品添加物・トレー・水など衣食住環境を広く浅く雑学? 現在環境アドバイザーとして沢山のひと

トワーク研究会の活動に賛同し、代表を務めさせていただいてます。
■その他コメント：岩手県内で環境問題に取り組んでいらっしゃる方々が、どうい活動をするか情報交換をしたいと考えています。まずはインターネットを通じて情報を得られる方法を模索しています。ご協力ください。



■氏名：梶原昌五
■所属：環境情報ネットワーク研究会
岩手大学教育学部

■プロフィール：大学でホヤの研究を行う傍ら、学生に生物学を教える仕事を通して、私自身がある自然を守らなければならぬと考えるようになり、環境情報ネット

●環境パートナーシップとは？

身近な環境問題から地球環境問題にいたるまで、それらに取り組むために市民、市民団体(NPO)、事業者、自治体など異なったセクターが横断的に連携・協力すること。

●岩手県では、主要な県内自治体(金ヶ崎町、盛岡市、花巻市、水沢市、北上市、釜石市、矢巾町)で、環境基本計画が既に策定され、東和町、滝沢村などでも策定中にもかかわらず、いまのところ環境パートナーシップ組織が設置されているのは、水沢市の「みずさわ環境市民会議」(ただし、定員があらかじめ決められ、行政から委嘱される委員から構成される委員会型の組織)のみ。

岩手県内の基礎自治体で環境パートナーシップ組織づくりが進んでいない背景→行政側に環境パートナーシップへの理解が決定的に欠けている→とりあえず県レベルで組織を立ち上げパートナーシップ推進の考えを県内自治体に示す。

●住民との協働により環境基本計画を策定したり、推進組織を住民や事業者とともに設置しようとしている市町村を戦略的に選択し、環境フォーラムを当該市町村や住民有志と共催することにより、パートナーシップ組織の立ち

上げを側面から支援する。

●多くのパートナーシップ組織=環境基本計画やローカルアジェンダ21の推進組織の位置づけ。残念ながら、「環境パートナーシップいわて」は推進すべき「アジェンダ」(行動計画)をもたない→主体別(県民・事業者・行政など)の環境配慮メニュー集である「行動計画」ではなく、環境パートナーシップいわてに参加する異なるセクター間の連携・協力により、具体的なリーディング・プロジェクトを推進し(例えば、カーエアコンを含むフロン回収システムの構築+有害紫外線に関する啓蒙冊子の作成・普及+市町村の紫外線対策への補助など)、それをアジェンダ策定につなげていく。

●イベント開催も重要だが、イベント開催は活動の一部にしか過ぎないことを銘記すべき→イベントのような一過性のプロジェクトに加え、継続的な協働型プロジェクトや事業の企画立案および実施

・県に対する政策提言(県の側でも、政策提言の実現に向けて積極的に動くべき。そのためにも、縦割り行政からの脱却、県職員側における、パートナーシップに対する理解の徹底化を図ることが必要)
・県の環境施策の点検・評価(例えば、

県環境基本計画の進捗状況の点検・評価)等も重要な活動である。

●盛岡中心の組織から全県的な基盤をもった組織に転換していかなければ活動に対する幅広い県民の支持と理解が得られないことを銘記すべき。

●例えば、地方振興局単位で支部をつくり(例えば、うつくしま環境パートナーシップ会議は、県内7つの地方振興局単位に地方環境パートナーシップ会議を設立)、地域内の交流を図るとともに、各地域の特性をふまえた具体的な目標と活動方針を設定し、推進することもあわせて検討すべき→これが市町村や地域におけるパートナーシップ組織設立につながる。

●ある目標の実現に向け、さまざまなセクターを結びつけ、意見や利害の対立を調整するなど「協働」を円滑に進めるためのコーディネーターが必要。

●将来的には市町村レベルの環境パートナーシップ組織の設置が進むものと思われる。そのとき、県レベルのパートナーシップ組織は市町村パートナーシップ組織の中間支援的な機能に移行すべきであろう。

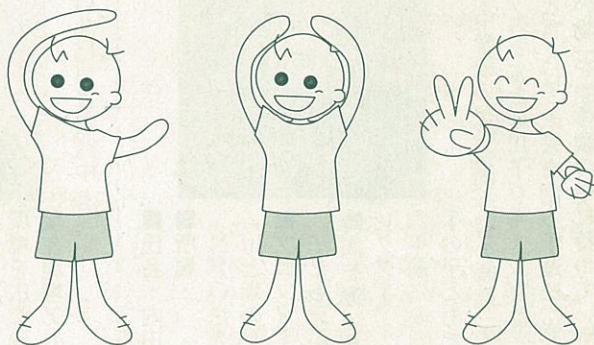
岩手県立大学総合政策学部
高橋秀行助教授の講演より

みんなでへらそうCO₂

「いわて環境フォーラム in 東和」でも好評だった歌って踊れるCO₂削減ソング「みんなでへらそうCO₂」はエコパルなごやの森本章夫さんの作詞・作曲で、森本さんの好意によりCDの貸し出しを事務局で行っています。

ご希望の方は、お名前、使用目的等を記入の上、事務局まで、メールかFAXでお知らせください。

また、ホームページでも曲と振付けのアニメーションを公開しています。(http://eco.soc.or.jp/CO2/)



編集後記

環境パートナーシップいわてニュースレターの第一号が発行されました。まだ産声を上げたばかりの集まりですが、これから時間をかけながら交流の場を作っていきたいものです。

発行：環境パートナーシップいわて事務局

020-0883 盛岡市志家町10-2

TEL 019-621-1890 FAX 019-653-6888

E-MAIL eco@isop.ne.jp